

わが町開成は、足柄上地域の中央部の酒匂川の扇状地に位置し、三方を箱根連山と丹沢山系に囲まれ、南は遠く相模湾を臨みます。町内に目を移すと、町域はなだらかに南傾した平坦地で、もともと農村地帯であったため水路が多く清らかな水流が走り、車では東名高速道路大井松田インターチェンジから町内まで数分であることや、鉄道は小田急線開成駅を玄関口として有しており、うるおいと交通の便に恵まれた暮らしやすい町です。東西 1.7km 南北 3.8km で総面積 6.56km<sup>2</sup> と県内の市町村で最小、全国でも 22 位ととても小さい町です。人口は約 16,000 人で、合計特殊出生率は 1.51% (平成 19年。県平均 1.22%) で平成 17年から 4年連続県内 1位、人口自然増減率は 0.68% (平成 20年。同 0.18%) でこちらも平成 19年から 2年連続県内 1位と、全国的に人口が減少する中、人口流入が続いており、特に子どもの増加が著しく平成 22年 4月には新たに小学校を開校します。これは、昭和 40年代に土地利用計画を整備し、それをバブル期にもぶれることなく頑なに守り通してきたことが今になって花開いたものです。

当町の土地利用計画は、町を大きく 3 分割し、北部地域は「ふるさとゾーン」として農村の風景を残し、中部地域は「くらしゾーン」として公共施設などを配置、南部地域は「ときめきゾーン」として小田急開成駅を中心に新市街地の整備を進めるというものです。その中でも特に北部地域の田園は、山や森林を持たない当町にとって貴重な自然空間です。17.2ha の田園を暮盤の目のように区切る道や水路に沿って 5,000 株のあじさいが植栽され、雄大な富士山

を背景にした田園とあじさいのコントラストは他に例を見ない風景であり、町最大のイベントあじさい祭によって「あじさいのまち 開成」として町の知名度を飛躍的に伸ばしています。



北部地域の中心にあるあしがり郷「瀬戸屋敷」は、代々名主を努めてきた瀬戸家のお屋敷で築 300 年以上の古民家です。瀬戸家から町に寄贈され、人々が集い体験することを通じ農村生活の原風景を後世に伝えていくために町が整備し、平成 17年に開園後、都市住民との交流拠点としてさまざまな活動が展開されています。



2月 16日(火)から 3月 7日(日)までの 20日間、瀬戸屋敷の一大イベントである「ひなまつり」が開催されます。県内外から多くのかたが訪れるこのイベント期間中、瀬戸家収蔵の雛人形を始め多くの雛人形などで彩られます。



中でも圧巻なのはイベントの立ち上げを担った町婦人会の皆さんの手づくりのつるし雛で、7000 個以上もの色とりどりのつるし雛が所狭しと飾られています。千代紙で着物のミニ壁掛けを作る「ミニタペストリー教室」といった企画も用意され、農商工連携によりリニューアルした地場産の食材を使用したお弁当「郷弁(さとべん)」も数量・期間限定で販売されます。イベント期間中は、小田急線開成駅と瀬戸屋敷を結ぶシャトルバス(有料)や、「雛の競艶(ひいなのかょうえん)」として連携する南足柄市郷土資料館と瀬戸屋敷を結ぶシャトルバス(無料)が運行されています。多くのかたのご来町をお待ちしています。

(開成町まちづくり部産業振興課 農政担当 田代 孝和)

合計特殊出生率及び人口自然増減率のデータは「ランキングかながわ(地域編)~統計指標でみる神奈川~」より抜粋

「ひなまつり」

・入園料 300 円(中学生以下無料)  
「ミニタペストリー教室」は 3月 6日(10:30~12:00、13:00~14:30)のみ開催。